日本篆刻家協会ニュースレター　2023.6.15 第14号
発行　日本篆刻家協会　　会長　尾崎蒼石　理事長　真鍋井蛙
日本篆刻家協会　563-0032 大阪府池田市石橋2-2-10-203　　編集　常務理事 北田成磊

日篆協藝報

理事長挨拶

理事長　真鍋井蛙

第三十九回日本篆刻展が終了した。いろいろ反省点もあるが懇親会も開催でき、久しぶりにお会いできた会員の皆様と対面で印談に花が咲いた。

来年は四十回の記念展だ。梅舒適先生の源流を求める特別展を考えている。先生が日本全国を行脚し、先生の芸術に憧れ、集まった諸先輩により、日本篆刻家協会が出来上がった。第一回展（篆社全国展）の折、大阪府営住宅の一室で友人と二人で図録や賞状を作成、総務副主任として東奔西走したことも今は懐かしい。

さて、そんなことを考えているうち、般若心経の「三世」を思い起こしている。この「三世」とは、過去・現在・未来のことを言う。そしてそれは「空」であると。肝心なことは、「現在」に感謝し、生きることだと説く。梅先生の血を皆さんが継いでいる。そして現在がある。今の生活に感謝し、今を平和に楽しく生きること、そして我々には生活の一部に篆刻がある。人は「いま」「ここ」でしか生きられないのである。

第三十九回日本篆刻展　開催

常務理事　東尾高岳

令和五年五月三十一日（水）～六月四日（日）、原田の森ギャラリーにおいて開催された。公募作品七十四点、会員百四十五・委員百十三・常任委員百十三の計四百四十五点、役員百九十八点の総合計六百四十三点の作品が展観された。併催の第七回公募学生展は、小中学生三百十六点・高校生三十六点（内最優秀賞一点）を展示した。また、特別展観として、張耕源先生の書画・印屏・刻印等の作品を展示した。本来第三十七回展での展観予定であり、作品集も上梓されていたが、新型コロナ感染拡大のため中止（延期）を余儀なくされ、今回ようやく先生の実際の作品を拝見することができ、大いに勉強になった。また、張先生、ご令嬢張屹女史・高弟孔黎翔先生はじめ計十六名の訪日団を得て大いに花を添えていただいた。

例年より早い梅雨入りで、連日雨予報であったが、二日（金）の荒天以外は天候に恵まれ、七百人以上の来場者にご覧いただいたが、三日（土）新幹線など交通機関に影響が残り、会場、授賞式・懇親会にご出席いただけなかった方が出たのは残念であった。

上・会場風景
中・張耕源先生作品　▽
下・学生展展示

特別展観　張耕源　書画篆刻作品

海外交流担当　喜多芳邑

張耕源先生訪日団十六名は五月三十日に来日され、翌三十一日十時に来場された。今回の企画は、先生からのご提案であり、十時半よりギャラリートークとして肖像印、書法、十八羅漢作品、花卉、向日葵の画、五点について、八十四歳というご高齢にもかかわらず、作品の前まで来られ、精力的に解説いただいた。肖像印の制作過程、陸維釗の蜾扁書、黄賓虹との関係、洋画・浮世絵の影響等、先生の多岐にわたる研究と作品への熱い思いはそのノートでも伺い知れる。担当者として、企画発案者の前理事長をはじめ、図録、展示等々、ご尽力いただいた役員の先生方、参加いただいた皆様に感謝する次第である。同夜、在阪役員による歓迎会を錦城閣にて開催した。翌日より兵庫、奈良、滋賀、京都を視察され五日の帰国である。

▷ギャラリートーク

▷錦城閣での歓迎会

第三十九回日本篆刻展「授賞式」

常務理事　松本雅至

六月三日午後、ＡＮＡクラウンプラザホテル神戸で開催され、全国から会員百三十一名、高校生七名の計百三十八名が出席した。真鍋井蛙理事長の挨拶を皮切りに、第三十九回展の概要報告および本年度審査員の紹介が行われた。その後、賞状賞品授与に移ったが、前日の台風による豪雨の影響で急な欠席が相次ぎ、出欠確認等に少々時間を要した。

まず高校の部より「最優秀賞」および「優秀賞」の受賞者が紹介され、真鍋理事長から受賞者および代表者に賞状が授与された。次に公募の部より「会員推薦賞」の受賞者の紹介、同じく真鍋理事長から代表者に賞状が授与された。特に「原田の森ギャラリー館長賞」の受賞者には、同館々長の仲井敬司様より賞状が授与された。会員の部では「秀作賞」・「特選」、委員の部では「奨励賞」の受賞者をそれぞれ紹介、真鍋理事長から各代表者に賞状が授与された。参与の部では「顧問賞」が井谷五雲常任顧問から、同じく参与の部「会長賞」が尾崎蒼石会長から受賞者に賞状・副賞が手渡された。常任委員の部では「日本篆刻展優秀賞」・「同準大賞」・「同大賞」、そして評議員の部では「梅舒適賞」の各受賞者に、真鍋理事長から賞状・副賞が手渡された。さらに寄託賞については、会員の部「兵庫県知事賞」・「兵庫県教育委員会賞」は兵庫県県民生活部芸術文化課長の吉村興二様から、同じく会員の部「神戸市長賞」・「神戸市教育長賞」は神戸市文化スポーツ局文化交流課長の井関和人様から、委員の部「兵庫県芸術文化協会賞」は公益財団法人兵庫県芸術文化協会理事長の西上三鶴様から、それぞれ受賞者各人に贈られた。また、同じく委員の部「神戸新聞社賞」は授与者が急遽欠席されたため、真鍋理事長から受賞者に贈られることとなった。

その後、ご臨席いただいた来賓の紹介があり、続いて来賓の吉村興二様および井関和人様からの祝辞を頂戴した。そして全受賞者を代表して「日本篆刻展大賞」受賞の平尾蒼龍氏により謝辞があり、最後に山下方亭常任顧問による挨拶で無事、幕を閉じた。

▷授賞式の様子

8月課題　「以墨為文」

役員（喜多芳邑選）

碧凰　草翠　克彦　華紅　白水

○萬谷碧凰　津田秀鳳
○永野草翠　秋山捷華
○名倉克彦　北畑謙之
○福谷華紅　田原呉山
○川崎白水　立石見聲
　片畑仁美　渡邉尚石
　古瀬章石　千蔵天空
　松本弘頌　計五四人

意図をもって刻されている秀作が多く見受けられた。時代を越えた書体を混用する時は、文字の調和を十分に考慮し推敲を重ねていきたいものだ。出品に際しては、印泥や押印の是非に細心の注意を払っていただきたいものも多く、残念であった。

常任委員（長谷川拓石選）

戯石　宝樹　昌子　貴美子　榮子

○岡崎戯石　永田乾石
○池谷宝樹　岡本浩二
○伊谷昌子　金井榴華
○西岡貴美子　田辺碧水
○中井榮子　鈴木耕石
　井畑喜雨　川栄玉峯
　白幡雪峰　藤聿彩
　小松五岳　計二八人

長年の経験から、見慣れた文字で、思い込みという落とし穴にはまり、為では旁の中が部分的に鏡文字の様に、墨では画数の少ない目になった文字がありました。今一度、刻す前に鏡に写し、正しい文字か確認したいものです。

委員（東尾高岳選）

翠庵　玲風　勝山　紅霞　紫雯

○尾畑翠庵　大塚萩露
○壹岐玲風　中島幸園
○大野勝山　山崎游石
○藤田紅霞　山本智子
○浦田紫雯　山中徹人
　八木壽石　高木啓志
　田中滋　長谷川孝翔
　袴田惠理子　計三七人

白文で漢銅印風のものに佳作が多くありました。また、金文を用いたモダンな作も秀逸でした。ただ惜しいものが何点ありました。押印です。印泥のつけすぎか、線がうまく出ていません。逆に薄くて鮮明でないのもありました。

会員（古溝幽畦選）

勝竹　艸城　春園　玄嶂　武

○広森勝竹　浜戸三徳
○岸艸城　亀田紫光
○米澤春園　藤田泰山
○國本玄嶂　五十里厚子
○小出武　大喜多惠子
　岩本凌慶　渡部雪華
　佐野真咲美　松本峰舟
　柴田聖風　計三七人

今回は金文・小篆・印篆さらには鳥虫篆まで、多種の篆書を扱った作品があり、その意欲の強さを感じさせられました。しかし、刀法として印を見た時に普段から扱っている印篆や小篆の作品に落ち着いたものの安定感のあるものが残りました。

9月課題　「破凡」

役員（酒居石荘選）

燕安　縁　桂舟　芳泉　華紅

○古野燕安　宇於崎碧峯
○山吹縁　片畑仁美
○岡田桂舟　永野草翠
○安井芳泉　多田学友
○福谷華紅　山本龍石
　土井青雅　名倉克彦
　中本管城　大槻彦裔
　木村容庸　計五五人

今回は二字句。字書を見ても甲骨金文はなく、奇をてらわず普通に配字して粗密を工夫した作、「線」がしっかりした作品が目を引いた。中に、字形、印材の形を変形したのが数点、うまくいかなかった。初心に帰って、基本的なことを大切に。

常任委員（松本雅至選）

浩二　悦治　戯石　信夫　稲廬

○岡本浩二　白幡雪峰
○兼子悦治　向畑芳翠
○岡崎戯石　滝口照影
○松村信夫　金井榴華
○田村稲廬　永田乾石
　小松五岳　杉江畦石
　東緑園　井畑喜雨
　松岡泰南　計三〇人

繁画と疎画で刻しやすい印文でしたが、特に疎画の「凡」字をどう布置するかがポイントになりそうです。朱文で小篆形と印篆形で刻したものが多かったです。一部の印に「凡」字を「風」字に誤ったものがありましたので、気をつけましょう。

委員（池田泥異選）

杏華　寛明　勝山　草心　智子

○山本杏華　長谷川孝翔
○茂中寛明　寺地寿和
○大野勝山　袴田惠理子
○吉田草心　池田叡花
○山本智子　本間燁衣
　田中滋　池内龍泉
　境山正甫　中島幸園
　内田哲舟　計三八人

本棚に整然と並んだ印譜類。購入時はそれなりに観たんですが。たまには開こ。小説でも映画でも読み直す度、観直す度新しい発見があるそうですから。

会員（井後雅堂選）

幽篁　紅玉　隆夫　雪華　哲幸

○遠藤幽篁　指輪桂舟
○池田紅玉　岸艸城
○秋吉隆夫　大喜多惠子
○渡部雪華　樅山煌雪
○吉田哲幸　岩本凌慶
　米澤春園　小出武
　五十里厚子　髙橋子路
　広森勝竹　計四〇人

誤字は審査対象にならないので、よく字書を確認して欲しい。似た作品が多いのは同じ字書の文字をそのまま彫ったためか。古典の香りが感じられるものを上位とした。何か自分の好きな作品を参考にすると、さらに良い作品になると思われる。

10月課題　「能亦好」

役員（小朴圃選）

管城　繁治　忠義　青雅　緑

○中本管城　丸山沙舟
○増田繁治　名倉克彦
○高橋忠義　計五一人
○土井青雅
○山吹緑
川崎白水
寺本翠葉
浅野道男

役員ともなれば、相当の年数篆刻をやって、篆書も書けて種々の表現ができる技倆を身につけていると思われるが、残念ながら？と疑問に感じる作の何と多いことか。この現実は個人の問題か組織の問題か。

常任委員（出田塘葭選）

榴華　悦治　戯石　雪峰　信夫

○金井榴華　川栄玉峯
○兼子悦治　小松五岳
○岡崎戯石　池谷玉樹
○白幡雪峰　永田乾石
○松村信夫　鈴木桂峰
井畑喜雨　田辺碧水
奥島極浦　井上秋鹿
安西幸恵　計二七人

今回は三字印の課題でしたので「能」か「好」が一行に一文字はいると思います。他の二字とのバランスがポイントになりますが、一文字の行の文字が大きすぎてバランスの悪い作品が何点か見られました。

委員（石原豊玉選）

勝山　小舟　萩露　幸園　草心

○大野勝山　境山正甫
○貴島小舟　森下正義
○大塚萩露　山本智子
○中島幸園　壹岐玲風
○吉田草心　山下登雲
大崎渓白　藤田紅霞
池田叡花　尾畑翠庵
橋本陽一　計三九人

三字文の課題「能」の二行が多く見られたが前後の字画数が同じようなので、迷うところです。印稿の段階で『形態』『作風』を考え、出来上がりをイメージすることが大事かと思います。今作品の中では古璽印風の作品に佳作があり、とてもよく出来ていました。

会員（伊佐治祥雲選）

艸城　正樹　厚子　朴園　紅玉

○岸艸城　吉田哲幸
○林正樹　浜戸三徳
○五十里厚子　岩本凌慶
○城本朴園　米澤春園
○池田紅玉　枝廣樹芳
伊藤光崖　樅山煌雪
遠藤幽篁　渡部雪華
矢羽野徹也　計三八人

十月の課題「能亦好」三文印で二字・一字と二字・二字又横三文字とそれぞれの布字である、三文字の大小、又余白のとり方に工夫してある印が多く見られた。それと朱文印が大半をしめ、白文印が大変少なかった。輪郭にも、もっと神経を使ってほしい。

11月課題　「逃禪」

役員（中島春緑選）

章石　謙之　天空　容庸　学友

○古瀬章石　立石見聲
○北畑謙之　遠藤栄子
○千蔵天空　川久保明
○木村容庸　福谷華紅
○多田学友　古野燕安
萬谷碧風　大澤容史子
丸山沙舟　宮越素翠
名倉克彦　計五三人

役員の作品は各自作風が異なりさすが完成度の高いものが多く見受けられました。しかし印泥の悪いものや押印の粗雑なものが大変多く見受けられました。上手に刻された印でも鈐印の粗悪で作品が台無しになります。押印まで気を抜かない事です。

常任委員（大村雪陵選）

稲廬　信夫　乾石　極浦　榴華

○田村稲廬　中井榮子
○松村信夫　白幡雪峰
○永田乾石　斎藤芳清
○奥島極浦　山口藤華
○金井榴華　兼子悦治
井上秋鹿　西岡貴美子
井畑喜雨　鈴木眞壽男
鈴木桂峰　計二八人

課題は二文字で配文の易しさと難しさが同居しており、夫々の文字が如何に融和して形作りに役目を果たす様心がけたい。両字共、縦画がやや多くその処理をどうするかで評価が分かれるところであろう。

委員（奥田晨生選）

滋　幸園　恵理子　智子　壽石

○田中滋　池内龍泉
○中島幸園　茂中寛明
○袴田惠理子　服部和彦
○山本智子　壹岐玲風
○八木壽石　尾畑翠庵
高木啓志　内田哲舟
中本管玉　池田叡花
大野勝山　計三七人

二文字の印文、二文字とも伸ばせる文字で比較的まとめ易かったようです。縦二文字にしたものなど少数見られましたが、印文によっては正方形ばかりではなく縦長や丸など先人を学んで印稿をもっと色々に工夫し試されては如何でしょう。

会員（梶川久美子選）

凌慶　徹也　真咲美　哲幸　艸城

○岩本凌慶　渡部雪華
○矢羽野徹也　城本朴園
○佐野真咲美　樅山煌雪
○吉田哲幸　村田昇治
○岸艸城　池田紅玉
國本玄嶂　小出武
藤田泰山　遠藤幽篁
浜戸三徳　計三四人

今月は比較的易しい課題で佳作がみられた反面、「逃」に誤字が数点見受けられました。折角の月一回の応募、丁寧に注意して取り組んで下さい。また、朱白相間作があり、成語の相間文には避けた方が良いと思います。

12月課題　「癸卯」

役員（黒田玉洲選）

誠

知了

縁

江涯

忠義

○大原誠　大槻彦斎
○寺田知了　岡田桂舟
○山吹縁　大城南浄
○浅野江涯　三枝龍泉
○高橋忠義　名倉克彦
坂正歩　川崎白水
武田黎秀　宮越素翠
片畑仁美　計五〇人

紀年印二文字は変化に乏しいと思っていたが、役員クラスの印は秀逸が多く楽しませてもらいました。年賀状に実用の印は小印で難易度、品格も高く、一寸角印は実用には向かないが効果を求めるには仕方のない事なのかと思ってしまう。

常任委員（北田成磊選）

芳清

紅珠

喜雨

極浦

悦治

○斎藤芳清　中井榮子
○田中紅珠　白幡雪峰
○井畑喜雨　鈴木桂峰
○奥島極浦　永田乾石
○兼子悦治　金井榴華
小松五岳　山口藤華
岡崎戯石　岡本浩二
井上秋鹿　計二九人

「月在青天水在瓶／薬山惟儼」物事にはあるべき姿があります。文字もまた然り。それを知らずして、ただ印を刻してもその先に道はありません。では文字のあるべき姿を知るために何が必要なのか。その答えは多見多写以外にありません。

委員（草田翠苑選）

草心

秀峰

管玉

幸園

孝翔

○吉田草心　橋本陽一
○矢持秀峰　大野勝山
○中本管玉　田中滋
○中島幸園　山下登雲
○長谷川孝翔　田邊進
高木啓志　池内龍泉
木村行石　壹岐玲風
中本崇　計三八人

今回は朱文が圧倒的に多く、印の形も半通印等さまざまで、楽しく審査致しました。中には色んな字書を参考に、自分の意図するものを選び作風に取り入れる等意欲的な作品もありました。より精進されることを期待致します。

会員（熊本夕生選）

真咲美

哲幸

煌雪

聖風

玄嶂

○佐野真咲美　城本朴園
○吉田哲幸　小出武
○樅山煌雪　岩本凌慶
○柴田聖風　五十里厚子
○國本玄嶂　林正樹
川野蘇晨　岸艸城
藤田泰山　遠藤幽篁
米澤春園　計三八人

各々そのスペースに、ただ収めただけとしか感じられない、二字の不調和な作品ばかりが目立ちました。重心の高さの調和を考えた作品を期待します。また、印泥の付きが少なく、弱く雑に感じる作品もありました。

1月課題　「五福祥来」

役員（黄平齋選）

知了

碧凰

尚石

米子人

葭舟

○寺田知了　永野草翠
○萬谷碧凰　木村容庸
○渡邉尚石　岡崎戯石
○遠藤米子人　井畑喜雨
○平中葭舟　吉田宗里
武田黎秀　岡田桂舟
川崎白水　細川恵苑
福谷華紅　計六〇人

五福祥来印は役員課題として表現の仕方が様様。優れた作は多く、勉強になる。上手な人は常に獨特な角度を持つ。結果も異なるでしょう。一方印に対して時には刀法、章法、字形など取其一点突破できれば、亮点も出ますね。

常任委員（田中修文選）

悦治

五岳

雪峰

叡花

秋鹿

○兼子悦治　鈴木桂峰
○小松五岳　西岡貴美子
○白幡雪峰　滝口照影
○田畑叡花　中井榮子
○井上秋鹿　服部和彦
三宅溪月　橋本陽一
田村稲廬　稲垣竹扇
奥島極浦　計二九人

印稿の段階でよく推敲された作品が見受けられ、好感を覚えました。ただ奇をてらったものもありました。「面白い作品を作りたい」という気持ちは大切にしていただき“奇”と映るかどうかの境目は古典に準拠するように心掛けてください。

委員（戸出九廬選）

智子

管玉

惠理子

真紀子

杏芽

○山本智子　大野勝山
○中本管玉　尾畑翠庵
○袴田惠理子　吉田草心
○庄田真紀子　大崎渓白
○植田杏芽　木村行石
大喜多清琴　池田龍泉
岩本凌慶　金子魯州
中島幸園　計三八人

二重二軽の構成となり、一文字目と四文字目の背を低く構成する作品が見受けられました。「五」の文字の空間の取り方により、他の文字よりも大きく見える作品があり苦労されているように思いました。

会員（中村葉舟選）

松苑

艸城

紅玉

蘇晨

俊二

○川上原松苑　國本玄嶂
○岸艸城　小出武
○池田紅玉　浜戸三徳
○川野蘇晨　秋吉隆夫
○高島俊二　亀田紫光
佐野真咲美　桔梗美朋
米澤春園　城本朴園
吉田哲幸　計三六人

廻文にした作品があったが、この印文で廻文にする必要はないと思う。奇を衒った様な作品が見受けられたが、真面目な印に佳作が多かった。

書と篆刻夫婦展　書画篆刻クラブ作品展
展覧会報告（松田泰軒）

境港市民交流センター「みなとテラス」開館記念事業として三月二十五日（土）から二十七日（月）まで桜満開の会場で二人の作品三十一点と篆刻教室十八名、妻の書道教室十六名の作品を展示致しました。天気に恵まれ、大阪から尾崎会長ご夫妻、県の書道連合会の柴山会長など鳥取や島根の書道関係者や市長をはじめ、三百五十名ばかりの人に来場頂きました。お陰でとても盛会に終わり有難く、米寿を迎えた私でもまだ頑張らなければと思います。

▷尾崎会長ご夫妻との記念写真

第三十八回隨風會書法篆刻展　展覧会報告

当会は毎年、海外交流展を開催しているが本年は、コロナ禍の為に三年越になっていた河北省滄州市の滄海印社（韓煥峰社長以下五十名）との交流である。当会の作品は篆隷に印影を加えて全紙、半折であった。本年の特筆すべき点は特別陳列に本邦初公開の「齊浮陽王隋上開府大府卿尉相願功徳」の石碑の実物大の拓本を展示出来たことである。昨年秋にその碑を（株）平野のガレージで鑑たその驚嘆が未だ忘れられず何としても当会の展覧会場で公開したかった。京都在住の傅巍先生のご尽力により全体（三面）を立体採拓して展示が可能となった。近年当会は隷書に篆刻を加える作品に取り組んでいるが、この三千字に及ぶ隷書の碑は今後の学習になるだろう。

▷「齊浮陽王隋上開府大府卿尉相願功徳」の碑に見入る杭迫柏樹先生他

第二回四媛展　展覧会報告
（出田塘葭・奥田晨生・坂本舜華）

令和五年四月二十一日（金）から二十三日（日）の三日間、兵庫県民会館内の「兵庫県民アートギャラリー」にて、第二回四媛展を開催いたしました。出品者の出田塘霞・奥田晨生・坂本舜華の三名に加え、シルクロードの印章で知られる小田玉瑛先生に賛助出品いただきました。また先生には展覧会に先立ち、四月十九日（水）、宝塚のピピアめふの会議室で「シルクロードの印章」について解説をしていただきました。あわせて、井谷五雲先生のお持ちのインド・アフガニスタン・イラン。ブータン王国・チベット・中央アジア・ローマ・エジプト・ギリシャなどの印章数十点お借りし、展示致しました。四十五名の参加を得、有意義な懇話会を持つことができました。

展覧会は、各人の書・篆刻作品。分刻作品を展示し、三百八十名の方にお越しいただきました。ご批評などもいただき、次回の展覧会でそれらを活かせるよう頑張っていきたいと思います。

◁会場風景

坂本舜華女史の〝マグネット〟印▷

第三回雙青會展　展覧会報告
（関踏青・畑間青露）

畑間青露

去る四月二十八日から三十日、第三回雙青會展を大阪翰林堂ギャラリーにて、開催いたしました。日本篆刻家協会の先生方をはじめ、たくさんの方にお越しいただき、大盛況に了えました。

今年のテーマは「好き」。関さんは「梅舒適先生」「BTS」、私は「坂井泉水」「古田敦也」の印を作成しました。

その他、「追従呉昌碩」「戴叔倫詩篆書対聯」「黄魯直詩題磨崖碑」「窮鼠噛猫」等と展示しました。

これからも「雙青會」という名を大切に細く長く続けて行きたい所存です。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

▷会場風景

令和五年度　東西篆刻交流会《髙木聖雨先生講演会》に参加して

常務理事　松本雅至

ゴールデンウィーク最終日の五月七日（日）午後二時より、東京都千代田区のホテルアルカディア市ヶ谷にて、コロナの蔓延で二〇一九年より延期が続いていた東西篆刻交流会が四年ぶりに開催された。時勢を鑑み、飲食を伴わない講演会形式ではあったが、日本芸術院会員・日展理事の髙木聖雨先生をお招きして、「篆書における両極の表現」と題してのご講演を拝聴した。我が協会からは部長以上の役員を中心に、尾崎会長、真鍋理事長、喜多・酒居・小副理事長、黒田代表理事、井後・北田・田中・古溝・松本常務理事の十一名が参加した。

始めに、このたびの幹事・発起人として、瑤藍印社の岡野楠亭先生、日本篆刻家協会の真鍋井蛙先生、北斗文會の綿引滔天先生が順に代表幹事を務められた扶桑印社の遠藤彊先生から紹介された。そして、遠藤先生より講師の髙木聖雨先生の紹介後、パワーポイントソフトを活用した講演会がスタートした。

講演会では、金文の字形が当時の美意識を反映し変化に富み、たとえば『大盂鼎』に見られる文字の中で、数字のみ右上がりの字形であることに注目されていた。また、王羲之と米芾の書風の違いを挙げ、羲之は基本で米芾は変化を重んじていることを指摘し、「米芾を先に学ぶと、王羲之が楽に学べる。米芾は文字の重心が低く、美的センスが優れている。」などと分析されていた。

次に、昭和書壇の大家であった西川寧先生、青山杉雨先生のいくつかの作品を取り上げ、潤渇や大小、紙面構成、鈐印位置をわざと加工して変えたものと真筆を並べ、書作時の逸話も交えながら「本物はどれだ？」のようなクイズ形式で、作品の解説をされた。さらに、趙之謙・呉昌碩・二世中村蘭台・小林斗盦・松丸東魚先生といった中日の著名篆刻家の作品（印影）を数顆取り上げ、同じように敢えて加工を施したものを本来の印影と並べ、どれが正しい印影か、正規の印影のどこにポイントがあるのかを解説していただいた。我々篆刻家にとって、普段よく見慣れているはずの印影も、どれだけしっかり見て勉強しているかが問われる講演内容であった。

このたびの東西篆刻交流会は、髙木聖雨先生の講演会のみで終了となった。懇親会は開かれず、少し残念であった。来年は関西で同会を開催する予定となっている。詳細はこれから詰めていくことになるが、我が協会からも多くの参加者を募り、この会が一層盛り上がることを願う。

▷（右）講演された高木聖雨先生
（下）画面に映された資料の数々

第三十九回日本篆刻展審査報告

「第三十九回日本篆刻展」の審査会が四月九日、兵庫県民会館で行われた。役員を含めた作品総数六百四十三点のうち、全国から寄せられた参与・評議員・常任委員・委員・会員・公募の審査対象作品五百六十四点を対象に、十七名の審査員が鑑別審査にあたった。慎重かつ厳正な審査の結果、参与から顧問賞一点、会長賞一点、評議員から梅舒適賞一点、常任委員から日本篆刻展大賞一点、準大賞四点、優秀賞十一点、委員から奨励賞三十四点、会員から特選二十八点、秀作四十六点、公募から原田の森ギャラリー館長賞一点、会員推薦賞七十四点が選ばれた。また、委員奨励賞から寄託賞二点、会員特選から寄託賞四点が選出された。さらに、併催の学生展は高校の部が三十六点、小学生・中学生の部が三百十六点の応募であった。

●審査員

理事長　真鍋井蛙（審査委員長）
常任顧問　井谷五雲　山下方亭
会　長　尾崎蒼石
副理事長　喜多芳邑　酒居石荘　小　朴圃
顧　問　伊藤雅夫　多田龍淵　中島春緑　平田蘭石
代表理事　黒田玉洲　黄　平齋　渡邉和琴
常務理事　石原豊玉　奥田晨生　古溝幽畦

■日本篆刻家協会顧問賞・会長賞選考委員
常任顧問・会長・顧問・理事長　八名

■梅舒適賞選考委員
常任顧問・会長・理事長・副理事長　七名

■大賞選考委員（大賞・準大賞・優秀賞）
常任顧問・会長・理事長・副理事長・代表理事　十名

■学生展選考委員
理事長・常務理事　四名

◁ 審査風景

◉主な受賞者（敬称略）

◆日本篆刻家協会顧問賞（参与）…正和杏葉
◆日本篆刻家協会会長賞（参与）…北野河聲
◆梅舒適賞（評議員）……岡崎戯石
◆日本篆刻展大賞（常任委員）……平尾蒼龍
◆日本篆刻展準大賞（常任委員）…井本雅士　川端不條
平田六橋　松本矢岳
◆日本篆刻展優秀賞（常任委員）…荒谷清光　井上秋鹿　小島研司
小松五岳　白澤虹石　中井榮子
藤澤涼子　古田衛　松岡泰南
南田陽苑　宮澤神竹

◇最優秀賞（学生展）……大石姫菜乃
◇優秀賞（学生展）……植木陽菜　古野七帆　白浜芹菜
角倉さくら　田中凜　富田明日香
半田輝莉　松原実花　三木優佳
山田奈槻

■展覧会のご案内

・兵庫県立美術館二〇二三年コレクション展Ⅰ「近現代の書」
四月二十九日（土）～七月二十三日（日）兵庫県立美術館 常設展示室6
※梅舒適先生の作品八点を含むコレクション展
・草田翠苑書法篆刻展 併催 師春堂文房雅玩展（代表・草田翠苑）
七月八日（土）～十七日（月）アートハウスおやべ
・第九回寧和展（代表・喜多芳邑）
七月二十一日（金）～二十三日（日）生駒市芸術会館 美楽来
・明分篆会展２０２３（代表・黒田玉洲）
八月四日（金）～六日（日）原田の森ギャラリー東館二階

※本年度の社中展等、開催予定がございましたら事務所までご連絡ください

日本篆刻家協会
〒五六三-〇〇三二
大阪府池田市石橋二丁目二-十
牧野ビル二〇三号
TEL ○七二-七六〇-三八五二
FAX ○七二-七六〇-三八五三
E-mail：info@n-tenkoku.jp